

ごあいさつ

持続可能な社会を目指し、 人と地球に優しい未来へ新たな価値を提案してまいります。

はじめに

東日本大震災の被災地の皆様に心からお見舞い申し上げますとともに、早期の復旧をお祈りいたします。復興は長期的となりますが、誇りと自信を持って暮らせる日本社会を目指して当社も一助を担ってまいります。

この震災により社会システムの弱点が顕在化し、人々の暮らしの中で物やエネルギーを当たり前のように消費してきた考え方を改めて見直す機会となり、企業においてもリスクマネジメントのレベル向上が従来にも増して求められるようになってきました。効率性を重視して集中化へと進んでいた社会インフラやものづくりは多様化と分散化の方向へ進み始めています。環境への取り組み活動についてもとすれば企業のイメージ向上につながるものが目的となりがちでしたが、社会が求める価値観が変わり、企業が必然的に果たすべき社会的責任になると考えています。当社は1915年に創業以来、世界の年間電力使用量の約50%を占めるモータとその制御技術について先駆的な役割を果たしてまいりました。持続的社會実現へ向けて環境エネルギーの諸問題解決は当社の使命として捉え、グローバルな視点で問題解決に取り組んでまいります。

低炭素社会実現へのチャレンジ

グリーンイノベーションに代表されるように低炭素社会を実現することは今世紀最大の経済成長戦略としてその位置付けが世界的に高まってきています。世界の人口は年率1%増加しており、非OECD諸国の経済発展とともにエネルギー需要はこれからますます増加していきます。低炭素社会を実現するためにはダイナミズムとパラダイムシフトを促すイノベーションが必要と考えます。

当社グループは2009年度からスタートした4か年の中期経営計画「Challenge100」の中で新しい価値・市場創造に挑戦する事業領域として、「環境エネルギー」「ロボティクスヒューマンアシスト」を位置付けています。「環境エネルギー」においては「省エネルギー」と「創エネルギー」の両面から事業を推進しています。「省エネルギー」については長年培ってきたモータドライブ技術を活かして省エネ、回生エネルギーの有効活用、自動車用電気駆動システムなど

環境対応製品とソリューションを拡充しています。一例として北九州市のアジア低炭素化センタと共同で中国政府の協力を得て、高効率モータとインバータを導入した際の電力使用量が10%以上削減できる効果を北京で実証しています。これからも環境の付加価値をつけた製品やサービスをグローバルに提供してまいります。

「創エネルギー」については当社のパワー変換技術をベースに、社会から大きな期待をかけられている太陽光・風力発電、バッテリー充放電機器など化石燃料代替の再生可能エネルギーを効率よく活用するための事業を進めています。地域との取り組みでは次世代エネルギー・社会システム実証マスタープランの一つである「北九州スマートコミュニティ創造事業」へ参画し、新エネルギーやエネルギーマネジメントの実証や提案に積極的に取り組んでいます。

事業活動におきましても環境負荷の最小化は環境経営の基本と考えています。2009年度からスタートした環境活動「グリーン1000」の中で、LED照明の採用や製造設備のインバータ化を積極的に実施するとともに、このような環境への取り組みを従業員やお客様へ見(魅)せる工夫も行っています。これらの活動を通して、低炭素社会の実現に向けた企業責任を果たしてまいります。

人とともに支える豊かな未来の社会づくり

中期計画で挑戦するもう一つの事業である「ロボティクスヒューマンアシスト」領域については人とロボットが共存する社会を目指しています。世界市場では自動化のニーズは高く、中国でも人件費高騰はもとより就労環境の改善を望む声が高まってきています。国内においても少子高齢化による労働環境対策やコストミニマム化へロボットの役割が大きくなると考えています。人と共存し、より人が使いやすいロボットへの取り組みを進めてサービスロボット市場の成長を促し、新しい産業が生まれ広がることを目指しています。

新たなロボットシステムをわかりやすく提案することを狙いに2009年度に立ち上げた「R1000プロジェクト」はこれまで多くのロボットを社内に導入し、ロボット化のノウハウを積み上げてきました。これからも当社の生産現場を

TOP MESSAGE

ショールームとしてお客様の問題解決のヒントを提供してまいります。また、もっとロボットに興味を持っていただくためにソフトクリームロボット「やすかわくん」をデビューさせました。おかげさまで今まで取引のなかった企業様からお声をかけていただくようになりました。これからも新たなロボット市場に挑戦し、社会的課題の解決に貢献してまいります。

人材が支えるグローバル企業

中国をはじめとした経済成長率の高い国々や欧米地域でグローバルに成長を続けていくためには、現地に貢献し、効率的に製品を供給する需要地生産を進めることが重要と考えています。当社では中期経営計画において2012年までに海外生産比率を30%まで高めてまいります。企業の成長を支えるのは人がすべてです。グローバルな企業力を高めていくためには果敢にチャレンジする風土を社内で作ることが大事と考えています。私も先頭に立って各部門、各層の従業員と語り合う場を持ち、思いとこれからの方向性を共有してまいります。

また工場や事業所見学幅広い受け入れや、地域にぎわいづくりへの協力、全国高等専門学校ロボットコンテストの支援、子ども向け体験教室の開催などを通じて、次代を担う世代へものづくりの楽しさを共有できるように努めてまいります。

本報告書は、ステークホルダーの皆様、当社の環境保護に関する活動のみならず、コンプライアンス体制、良き企業市民としての取り組みなどをご報告するものです。今後、社会に対する貢献をいっそう高めるために、皆様からの忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

取締役社長

津田 弘嗣

